

○テーマについての意見・提言に対するコメント

「地域住民がボランティア活動に気軽に参加できるには」

ご意見ありがとうございます。

町民に対するアピール不足につきましては、町の広報、ホームページなどをこれからも活用して、今まで以上に周知を図ってまいります。

ボランティア活動のアピール方法などは、社会福祉協議会とも連携して進めてまいります。

いただいた貴重なご意見・ご提案につきましては、役場だけで解決できないことがほとんどですので、東部コミュニティ、学区会、大字横松とともに実行できるようこれからも地域と町が協力していきたいと考えております。

○地区からのご意見に対する回答

「横松遊園地を一時避難場所とすることについて、屋外のため夜間、雨天、冬季等課題があると思う。公民館改修等で対応や検討ができないか。」

【回答】

横松遊園地は、町の指定避難場所ではありません。従って、地区で決めた一時避難場所という位置付けになります。

また、横松公民館も町の指定避難所ではありません。

横松公民館の改修等につきましては、「阿久比町地区所有等集会施設大規模改修等事業費補助金」という補助事業で対応できる場合もございますので、具体的な改修計画がありましたら早めに役場総務課庶務係へご相談ください。

「避難場所が同じような条件の地区はあるか。」

【回答】

町の指定避難場所や指定避難所がなく、地区で決めた避難場所や避難所のみの地区は他にもございます。

例えば、同一の条件は萩・福住・メイツ巽ヶ丘地区です。

また、福住園高台・白沢台など指定避難場所はあるが、指定避難所はない地区もあります。

一時避難場所は、命を守るために「一時的」に避難する場所であり、事態が落ち着き、夜間、雨天、冬季等、屋外の滞在が困難であれば、速やかに、近隣の避難所へ移動していただくようお願いいたします。

横松地区の指定避難所は東部小学校です。

今後、町としても指定避難場所・指定避難所につきましては、安全性の確保や立地条件等を鑑みて、適宜増やしていくよう検討していきます。

○テーマについての意見・提言に対するコメント

「行政と住民が連携した防災訓練の方法について」

ご提案をいただきありがとうございます。

町としても、突発災害時のシミュレーションを行うことは大切なことであると考えています。そのため、過去に何度か（平成23、24、25、28、29年度）突発災害を想定した一般町民参加の訓練を実施しました。内容は、安否確認フラッグの掲示、一時避難場所への避難、一時避難場所における自主防災会を中心とした避難者の対応等です。

その後、地域からの避難状況の報告を無線機で受け、町災害対策本部との対応をシミュレーションしました。

今後も、定期的な訓練の実施を計画するよう検討してまいります。

「定住促進を図るために地域でできること 町営事業の促進について」

ご提案をいただきありがとうございます。

本町のお米は、阿久比米という名前でお米では定評がありますが、米作りは全国で行われている農業であり、テーマパークの施設を設けるまでの町営事業としての考えはありません。

金利の支援ではありませんが、現在、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中小企業者の資金繰り支援としてセーフティネット4号およびセーフティネット5号認定関連融資、危機関連保証関連融資、経済環境適応資金（経営あんしん）の融資を受けた方に、「阿久比町経済対策信用保証料補助金制度」があります。他に、小規模企業等振興資金融資制度の申し込みをされ、融資の実行がなされた場合に発生する愛知県信用保証協会の信用保証料の1/2、上限10万円の補助制度がありますので、活用していただければと思います。

融資につきましては、現在、売り上げ減少の割合に応じて、優遇を受けられる制度として、セーフティネット4号およびセーフティネット5号認定関連融資、危機関連保証関連融資がありますので、金融機関にご相談してください。

町営住宅につきましては、阿久比町が主体となる住宅開発事業の予定はありませんが、現在、町の都市計画の基本方針である「都市計画マスタープラン」を策定しており、現在の市街化区域内の未整備・低未利用地などの利用促進は、まちづくりの活性化のためには非常に重要と考えております。民間活力の導入も含め、住民の皆さまと協働しながら、よりよいまちづくりが進むよう、検討していきます。

また、阿久比町単独でのごみ焼却場&プールの計画はありませんが、現在、阿久比町は東部知多衛生組合（大府市、豊明市、東浦町、阿久比町）でごみ処理事業、し尿処理事業、温水プールなどを共同で管理運営しております。平成31年4月から稼働している新ごみ処理施設（エコリ）や令和2年度よりリニューアルオープンした東部知多温水プール（住友重機械温水プール）などをさらにPRし、阿久比町民でよかったと思えるよう努めてまいります。

「地域住民がボランティア活動に気軽に参加できるには」

ご提案をいただきありがとうございます。

町では、ボランティアセンターの運営を社会福祉協議会に委託しています。社会福祉協議会のホームページには、活動団体の情報などが掲載されています。今後、必要に応じてボランティアの要請・協力などを行うことがあるかもしれませんが、その際にはご協力をお願いいたします。

○地区からのご意見に対する回答

「まちづくり懇談会、地域福祉ミーティング等毎年恒例となっていますが、各年毎地域からの提案・意見に対する行政の対応回答は明確になっていますか。過去の地域からの議事事項と行政の回答を頂きたいです。これが解決して初めて次のテーマに取り組むことができるのではないのでしょうかについて」

【回答】

まちづくり懇談会につきましては、毎年開催に際し各地区の役員さんにはご面倒をお掛けするとともにご配慮いただき、ありがとうございます。

お尋ねのありました地域からの提案・意見に対する行政の回答ですが、毎年9月頃の会議において行政協力員の皆さんへ議事録を配布するとともに、ホームページでも公開しています。

町の対応や回答を掲載していますので、ご確認いただきますようよろしくお願いいたします。

地域福祉ミーティングは、第2次地域福祉計画（計画期間：令和3年度から令和8年度）策定のために住民参加の一環として開催したもので、住民の皆さんが日ごろ感じている地域の福祉課題や解決のための手段、役割分担などについてワークショップ形式で意見交換を行いました。地域福祉計画は高齢者や障がい者、子どもに限らず、誰もが地域で安心して暮らし続けるために何ができるかについて、住民、行政、事業所等が一緒になって考えていくものですので、地域からの提案や意見に対し行政が回答をするものではありませんが、そこで明らかになった地域における福祉課題につきましては、解決するためにどんな施策が必要か、計画の策定委員会及び作業部会の中で内容を検討し第2次地域福祉計画の中に盛り込んでいきたいと考えております。

○テーマについての意見・提言に対するコメント

「行政と住民が連携した防災訓練の方法について」

ご意見・ご提言ありがとうございます。

ご紹介いただきました、宮津自主防災会の活動につきましては、きめ細やかな体制づくり、役割分担がなされ、また、発生直後から時間ごとのフェーズに伴う役割の変化も取り入れられ大変素晴らしいもので、心強く感じております。引き続き、区民の皆さまと連携した活動をお願いいたします。

行政と地区の連携、地区の状況報告、行政の的確な支援に向けた連携につきましては、毎年、地区と役場との簡易無線機での連絡訓練や定期的に地区住民の皆さまにも参加していただく避難訓練等を実施しておりますが、ご意見いただいたとおり、国・県への支援要請にかかる情報収集や、支援物資を地区へ展開する方法等、災害時にできるだけスムーズに行動できるよう平時からの、地区と行政との情報共有や訓練が重要になると考えております。

今後の訓練方法の検討の際の参考とさせていただきます。

情報伝達機材等につきましては、現在は主に簡易無線機の使用を想定していますが、今後、町災害対策本部と地区との双方向による情報のやり取りに関して、ご提案の写真等、従来の音声以外での情報伝達によることは、災害時における迅速化・視覚的な判断効果も十分に期待できると考えますので、研究していきたいと考えております。

○地区からのご意見に対する回答

「町道矢高横川線の宮津3丁目交差点の安全対策について」

【回答】

町道矢高横川線の宮津3丁目交差点の安全対策として、防犯灯を設置することにつきまして、地区より新設要望をいただいた3カ所は、他の地区の新設要望箇所との優先順位によりますが、設置できるように進めていきたいと考えています。また、町内全域から提出される道路照明設置要望などの交通安全対策に係る要望について設置効果をそれぞれの設置基準から検証し、必要であれば、交通安全対策工事として順次対応してまいります。

○テーマについての意見・提言に対するコメント

「定住促進を図るために地域で出来ること」

「地域住民がボランティア活動に気軽に参加できるには」

コロナウイルス感染症対策の関係で地域の意見をまとめるに忙しい中、ご意見・ご提言をいただき、ありがとうございます。

地域のボランティア不足に関する悩みは、他の地域でも同じように存在すると思います。

特に宮津団地自治会は高齢化が進む中で、住宅再開発の兆しがあるなど地縁活動が今後も難しくなっていくと感じます。

1つの自治会での運営が困難な場合は、東部コミュニティなど小学校区でイベントを一本化できるものは統合するなど新しい運営形態を模索していかなければならないと考えます。

ご提言のとおり宮津団地の盆踊りは、町文化祭に出品されました「ジオラマ」のように活気に溢れた魅力あるイベントに思えます。

そのため、他地域の住民も多数参加する一大イベントになっていますので、イベントスタッフや学生ボランティアを募集するなど、高齢者の負担を可能な限り軽減する方法に移行しながら継続実施していただけたらよいと感じます。

地域の活性化と連帯感を深めるためにも地域イベントの企画開催を改善しながら実施していただきたいと存じます。

○地区からのご意見に対する回答

「大型家電の不法投棄がある箇所が続いています。防止対策の一つとして監視カメラの設置をお願いできませんか」

【回答】

テレビ・冷蔵庫等の電化製品の不法投棄は、人目に付かないだけでなく、主要幹線に近く、車両が乗り入れし易く、かつ停車しやすい等の条件が合った場所で発生しています。

担当課としても、対応に苦慮しておりますので、監視カメラの設置につきましては不法投棄対策の一つとして検討してまいります。まずは、テレビ・冷蔵庫等の家電リサイクル法による家電の処理方法を広報等で周知するとともに、警察とも連絡をとりながら、監視を強化したいと考えております。

また、大字や自治会の防犯カメラ設置に対しての町の補助制度もございますので、ぜひご活用ください。

○テーマについての意見・提言に対するコメント

「定住促進を図るために地域で出来ること」

ご意見・ご提言ありがとうございます。

1. 生産年齢世帯では

1) 「平日には家に誰もいない・・・」という問題について

生産年齢世帯の災害への備えは、まず「自助」の面では、平時から自宅周辺の浸水・土砂災害等の災害ハザードや避難場所・避難所の確認、また、家族間での情報共有が重要であると考えます。加えて、各ご家庭での備蓄品の備えをお願いいたします。

また、本町は町外へ通勤・通学する方も大勢みえますので、発災時、勤務先や学校から自宅までの経路の確認やその方法を日頃から想定しておくことも重要です。町の広報や町ホームページなどで定期的に掲載はしていますが、今一度ご確認ください。

また、「共助」の面では、ご意見のとおり、平日の日中は地区に人が少なくなることから、各自主防災会にて地域に見合った組織づくりや訓練が必要です。具体的には、地区にいる限られた方（若者が少ない。高齢者や女性・子どもが中心。）で発災時の初動をどう乗り切るか。隣接の地区、行政とどう連携するかは事前に備えが必要です。

そのためには、日頃から隣近所や自治会で顔の見える関係性を築くことから始める必要があると考えますので、宮津山田自治会さんとしてもご検討いただきますようお願いいたします。

学校が地域に子どもたちのための見守り隊への参加を呼び掛け、それに応えて見守り隊として活動されている方も多数おみえです。学校教育課では見守り隊に参加される方へジャケットの配布などの支援をしています。

また、宮津山田さんは青色回転灯を装備した車による自主防犯パトロール隊活動を行っていただいています。町としては青色防犯パトロール講習会等の実施などにより、自主防犯パトロール隊を支援するとともに、必要に応じて防災交通課も青色回転灯装備車によるパトロールを実施してまいります。

今後とも安全・安心なまちづくりへのご協力をお願いします。

阿久比町では、放課後の子どもたちの安全で健やかな居場所づくりとして、保護者が就労等により昼間家庭にいない小学生を対象に、放課後児童健全育成事業（学童保育事業）を民間の NPO 法人に委託し、実施しています。

東部学区におきましては、「げんきッズ東部」と「げんきッズあゆみ」が事業を運営しており、保護者の就労時間等の入所要件はありますが、平日は、小学校下校後から午後 7 時まで、土曜日は、午前 8 時から午後 6 時まで開所しています。

実施場所につきましては、放課後児童健全育成事業の実施区域は、各小学校区を実施区域としているため、実施場所や運営形態の問題から特定の地区に施設を増設することは難しいと考えます。地区によっては、ご不便をおかけする

と思いますが、既存の施設の利用にご理解とご協力をお願いします。

2. 子離れした世帯

1) 「夫婦2人暮らしとなり、高齢化が進むと他からの支援が必要」について

令和2年10月からシルバー人材センターに委託して、要支援者等が買い物、ゴミ出し、話し相手、散歩の付き添いなどの生活援助を受けることができるサービス「エプロンサービス」を開始しました。

また、令和3年4月からは、地域のボランティア団体が実施する生活支援サービスに対して活動経費を助成する「ささえあい支援事業」を開始できるよう検討を進めています。地区からのご相談には、生活支援コーディネーターが地域の皆さんのもとへお伺いし、皆さんとも協議をしながら、より良い支援体制を構築していきたいと思いますので、地域の皆さんのご協力をお願いします。

個人情報保護の観点からも、行政が緊急連絡網を作成することは難しいと考えます。各地区の取り組みとして、可能な範囲で緊急連絡体制の整備を行っていただければと考えております。

2) 「没後に空き家が発生」について

空き家発生の要因は、多岐にわたり、空き家の利活用の促進等により解消を図ることが求められます。令和元年度に空き家対策の基本指針となる、「空家等対策計画」を策定いたしました。空き家所有者の相談窓口や空き家の利用希望者と所有者をマッチングする空き家バンクの創設等を進めることにより、空き家の管理を適正化するとともに、本町への移住促進を図ってまいります。

3. 新規転入者世帯

1) 多様な世帯（生産性世代）が阿久比町に転入する

新規転入者の皆さんに阿久比町の歴史、伝統、文化などをお知らせすることは、とても大切なことだと思います。

学校では、町の概要を一冊にまとめた「副読本」を、小学校3年生、4年生の社会科で使用し、阿久比町について学んでいます。また、総合学習の単位では、米や野菜づくりの体験や、地域のお年寄りを講師に招き、阿久比の風習などを伝えてもらえるような取り組みを行っています。学校の授業から発信する阿久比の良さや素晴らしさの情報が、家庭での会話の中から子供たちから親に伝わり、やがて親から地域へと足が運ばれるといった、そんな自然な流れを作ることが理想的であると考えます。

子供の活動を通じて、保護者の地区活動参加を促し、子供の親同士の交流を深める提案には同感です。地域からも学校を通じて子供たちに伝えていかなければならないと思われる情報発信のご協力をお願いします。

○地区からのご意見に対する回答

「次世代を担う若者世帯について」

【回答】

ご指摘いただいたとおり、災害や有事の場合の協力などのため、また地区を支えていく上でも交流を深めていくことは重要です。現状の積極的な活動も他の規範となるようなすばらしいものと了解しています。

今後も、子どもと大人の両方が参加できるような活動を推進して様々な世代の交流により、地域の連帯感を深め、活性化を図っていただくことをお願いいたします。

また、次世代を担う若者が活躍できる機会や場所を提供することは大切なこととあります。第6次総合計画策定の際には、まちづくり会議として若者会議や子育て世代会議で意見をいただきましたが、町としても方法を考えてまいります。

○テーマについての意見・提言に対するコメント

「行政と住民が連携した防災訓練の方法について」

貴重なご意見ありがとうございます。

町では毎年、小中学生が参加できるイベントとして「避難所キャンプ」を開催し、幼稚園・保育園や小学校にチラシを配布し参加を促進していますが、なかなか参加にはつながらない状況です。

住民の皆さま一人ひとりの防災・減災意識に働きかけるような仕掛けを引き続き検討してまいりますので、よろしくお願いいたします。

一般の町民の方が参加しやすい、また、日頃から防災や減災に関し、少しでも意識をもてただけるよう、町の既存のイベントと連携した「防災ブース」や「防災フェア」の開催があります。実際に他市町では防災訓練時に防災協定を結んだ各事業所がブース出展し、PR している事例もありますので、本町でも多様な町民参加に向け必要な取り組みであると考えています。

過去の防災訓練では、炊き出しのふるまいや愛知県から啓発用に支給された防災食を参加賞としてお渡ししております。

今後も、より多くの町民の皆さまへ参加いただけるよう、様々な工夫を図ってまいります。

なお、自治会（自主防災会）へは毎年育成補助金を交付しております。令和2年度の陽なたの丘自主防災会への補助額は、80,780円ですのでご活用ください。

○テーマについての意見・提言に対するコメント

「行政と住民が連携した防災訓練の方法について」

ご意見ありがとうございます。

町では毎年１回総合防災訓練を実施しており、各自主防災会では地区での防災訓練を実施していただいております。

今後は、その成果や課題について、意見聴取できる仕組みと課題解決へ向け、町と地区とが情報共有できるよう努めてまいります。

「定住促進を図るために地域で出来ること」

「地域住民がボランティア活動に気軽に参加できるには」

ご意見ありがとうございます。

移住促進・定住促進のために他市町と差別化することにつきましては、どの市町村もアイデアを出しながら進めているところですが、すぐに効果がでている施策は見当たりません。

本町の場合は、強みである名古屋や三河からほど近い好立地でありながら、緑豊かな田園風景が広がる住みやすいまちという特徴を強く発信していく「阿久比プレイガーデンプロジェクト事業」を進めています。

昨年度実施した住民アンケートでは、まちに対する愛着度も定住意向も高い結果でしたので、これからも地域に愛着を持ち続けて頂くような事業を住民の意見を取り入れながら展開していきたいと考えております。

また、魅力ある町・地域づくりの欠かせない要因にボランティア活動の活性化があります。

阿久比町独自の施策である住民税１％町民予算枠事業などを利用して、ご指摘いただいたように、義務ではなく、一緒に楽しく参加できるような取り組みを進めるボランティアの人数が増えていくことを願っています。

○地区からのご意見に対する回答

「令和２年度まちづくり懇談会の趣旨・目的・目標が伝わってきません。阿久比町総合計画第６次の延長ですか？テーマの選定、開催日時曜日等住民目線で計画立案を望みます。阿久比町としてどのようなことが可能か？単なる要望・夢物語にならないよう工夫も大切かと思います。」

【回答】

まちづくり懇談会は、各地区の課題を町と参加者が共有し、よりよいまちづくりを共に取り組んでいくための大切な機会と捉えています。

また、住民の意見を町幹部が直接聴くことができる貴重な公聴の機会として、たくさんの方に参加いただけるようテーマ、開催日時や手法を毎年変更しながら最適な方法を検証してまいりました。

土曜日の開催や時間帯を夜間から日中に変更したり、開催場所ごとに異なる

板 山

時間を設定したりしてまいりましたが、結果として参加者を増やすことはできませんでした。

行政協力員の方々に、どのような開催方法がよいかのアンケートも実施し、その結果を参考として開催したこともございました。

結果としては、毎年同じような人数しか参加していただけませんでしたので、ご指摘いただいた単なる要望・夢物語にならないように、内容についても改善を図りながら、町と地区でさらなる協議を進め、よりよい開催方法を見つけていきたいと考えています。

貴重なご意見ありがとうございました。

○テーマについての意見・提言に対するコメント

「福住地区の防災対応について」

○地区からのご意見に対する回答

「安全な避難所の確保について」

ご意見ありがとうございます。

現在の町防災マップは、平成２６年１２月に作成したものです。

昨年度に愛知県が想定し得る最大規模の降雨を前提とした浸水想定区域の見直しを行いましたので、この見直し結果を基に浸水想定や土砂災害ハザード等現在の土地利用に即した想定ハザードを反映した防災マップに改定する予定をしております。

今年度中に建設環境課にて洪水ハザードを整備する予定ですので、その結果により防災交通課が防災マップを改定します。

また、指定避難場所・指定避難所につきましては、安全性の確保や立地の条件等を鑑みて、適宜増やしていくよう検討をしております。

今後も町が行う様々な防災・減災対策に関し、地区の皆さまのお知恵をお貸しいただくようお願いいたします。また、合わせて防災における地区での「共助」醸成にご協力をお願いいたします。

○テーマについての意見・提言に対するコメント

「定住促進を図るための地域でできること」

ご意見、ご提案ありがとうございます。

白沢区民館を拠点に字行政活動、地区事業の開催、区民館利用団体の活動が行われているとのことですが、利用者の方が安全、安心して運動していただけるよう、今後とも体育室の施設整備に努めていくこと、また大規模な修繕等が必要な箇所があれば、阿久比町立施設大規模修繕等実施要綱に基づき、修繕等を検討させていただきます。また、白沢地区にある白沢グランドにつきましては、白沢区民の方々を含め、多くの町内外の方々から利用していただいていますので、今後も、安全、安心して運動していただくことができるよう、施設整備に努めてまいります。

○地区からのご意見に対する回答

「旧北原保育園・北原天満宮の一体活用について」

【回答】

地域の集いの場として現在、社会福祉協議会や生活支援コーディネーターが地域に働きかけ、サロンや見守り活動を実施しています。

北原保育園は、休園という扱いであり、他の用途に使用するには調整が必要となります。また、耐震基準も満たしておらず、課題があります。

将来の北原保育園の跡地利用については、色々なご意見ありますので、参考とさせていただきます。

○テーマについての意見・提言に対するコメント

「地域住民がボランティア活動に気軽に参加できるには」

ボランティア活動に対するご意見・ご提案をいただきまして、ありがとうございます。

阿久比町では、「青少年体験ボランティアセンター」を設置しており、子供たちにボランティア活動の機会を提供しています。センターでは、さまざまな体験活動・ボランティア活動から、子供たちが他人に共感することや自分が大切な存在であること、社会の一員であることを実感することを通して、思いやりの心や規範意識を育むことを目的として事業を展開しています。

タイボキッズクラブは、年間を通して活動したい子供たちを募集し、協力していただける施設に出向いたり、行事に参加したり、年6回活動しています。このほかにも、主に夏休み期間を利用して、活動の機会を提供してくださる施設やイベントを主催する団体のご協力のもと、子供たちはボランティア活動をして、家庭や学校とは異なる“いつもと違う”環境で、新しい自分を発見し、学んでいます。

また、子供たちと一緒に活動してくださる方には、「ボランティア講師」として登録していただいております。講師の皆さんの「子供たちと一緒に楽しく学びたい」という声と、子供たちの「体験したい」、「話が聞きたい」という声を結びつけるお手伝いをしています。

これらの事業を住民の皆さんにお知らせして、活動する子供たちにより多くの機会を提供できるよう、受け入れ先やボランティア講師の皆さんのご協力をいただきながら、取り組みを充実させていきたいと思っております。

○地区からのご意見に対する回答

「働く年代の者、子育て世代の者を一番大切に考え行政がサポートしてほしい。」

【回答】

ご意見ありがとうございます。

働く年代、子育て世代の皆さんは、これからの阿久比町を担っていく方々であり、活気あふれるまちには欠かせない存在ですので、これまでも子育て支援に力を入れてまいりました。

しかし、本町では限られた自主財源の中、児童生徒の増加に対応するため、小中学校の増築、給食センターの新設など大型公共事業に費やす費用が増大しています。

特に令和元年、2年の予算を編成する際には阿久比町の宝である子どもたちが、健康で輝きながら育つように、全ての子育て家庭が安心して子育てができるよう「教育と子育て支援のまちづくり」に主眼を置いて予算配分をしました。

その中で働く年代、子育て世代の皆さんはもちろん高齢者、障がいのある人たちなどあらゆる住民に対する施策を行っていかねばなりません。

白沢台

ご意見いただいたとおり、働く年代、子育て世代の皆さんのサポートは大切ですが、すべての世代の住民に満足いただける行政運営を心掛けてまいりますのでご理解とご協力をお願いします。

○テーマについての意見・提言に対するコメント

「定住促進を図るために地域で出来ること」

ご意見ありがとうございます。

高根台から巽ヶ丘駅への公共交通手段は、知多バスによる東ヶ丘団地線があり、通勤通学の時間帯にはある程度便数がありますが、ご指摘のとおり平日の日中は少ないことは承知しています。

阿久比町循環バス（アグピー号）は、ルートの都合上高根台から直接巽ヶ丘駅に行く便はありませんが、名鉄坂部駅や阿久比駅に向かう便が1日6便あり、バス停は、東ヶ丘〈東ヶ丘クリニック前〉と高根台集会所前の2箇所にございますのでご利用ください。

アグピー号については、便数が少ない等のご意見もいただいているところですが、町財政の状況と需要をみながら、いわゆるオンデマンドバスなど新しい形態の公共交通も含め、今後検討していきたいと考えています。

また、70歳以上の高齢者に年間30枚配布される「タクシー料金助成券」もございますので引き続きご活用ください。

○地区からのご意見に対する回答

「ごみ荒らし対策」

【回答】

ごみステーションが荒らされることにつきましては、ごみをステーションの奥まできちんと入れる、ネットをしっかりとかける等を確実に行えば、ある程度まで防げると考えますので、今後広報等で啓発し、マナー向上に努めてまいります。

また、金網のメッシュボックス型の集塵箱につきましては、高額な費用を伴います。基本はネットで対応したいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

○テーマについての意見・提言に対するコメント

「定住促進を図るために地域で出来ること」

ご意見・ご提言ありがとうございます。

① 安全安心な町

坂部は全体に道が狭い。道路の拡張・整備、側溝への蓋の設置については、地区から提出していただく道路の拡幅・整備、側溝蓋設置などの維持補修申請書をもとに、現地状況を確認し、費用対効果を検証し、地区の方々のご協力を頂きながら実施していきます。

「近所同士の交流による安心な町づくり。避難訓練で、安否確認訓練を行い互助への意識を強化する。」につきましては、ご提言のとおりであると考えます。

過去（平成28、29年度）、突発災害を想定した一般町民参加の訓練を実施しました。内容は、安否確認フラッグの掲示、一時避難場所への避難、一時避難場所における自主防災会を中心とした避難者の対応等です。

その後、地域からの避難状況の報告を無線機で受けるシミュレーションを行いました。今後も、定期的な訓練の実施を計画するよう検討していきます。

防災無線が聞こえない地域があり、安全で迅速な避難行動が取れないというご指摘ですが、今年度、防災行政無線のデジタル化工事に合わせ、スピーカーの入れ替えや向きの調整を行うなどの対応を予定しています。その際には、行政協力員の皆さまへもご協力いただくことがございますのでよろしくお願いします。

昨年度電波の届く地域の把握調査を実施しました。また、本年度のデジタル化工事に合わせ導入する「防災アプリ」を住民の皆さまへ積極的に周知し、的確な防災・減災情報を住民の皆さまへ発信できるよう努めてまいります。

このアプリでは、防災無線から流れてくる情報がテキスト及び音声でそれぞれのスマホから確認することができるようになりますのでご利用ください。

②働く場所がある町

企業の誘致については、雇用の場が増え、税収入の増加も見込まれるので推進していきたい事業ではありますが、誘致するには、企業からの立地条件に見合う土地でなければ魅力がありません。面積、造成費用、関連法による規制などのさまざまな問題があり、提供できる適切な土地が見いだせないのが現状です。

③子育てがしやすい町

令和元年度に空き家対策の基本方針となる、「空き家等対策計画」を策定いたしました。本計画において、空き家を子育て世代の交流施設などの地域活性化施設として活用することは、空き家の利活用を進める上で、非常に重要であると考えます。担い手となる団体がいましたら、利活用可能な空き家があれば情報提供いたしますので、ご相談ください。

本来、荒れた田畑は、農地として利活用されるべきと考えますが、地元住民等で公園設置を希望する場所がありましたら、土地所有者の同意等のご協力を仰

ぐこととなりますが、ご相談いただきたいと思います。

④お年寄りにやさしい町

令和２年１０月からシルバー人材センターに委託して、要支援者等が買い物、ごみ出し、話し相手、散歩の付き添いなどの生活援助を受けることができるサービス「エプロンサービス」を開始しました。

また、令和３年４月からは、地域のボランティア団体が実施する生活支援サービスに対して活動経費を助成する「ささえあい支援事業」を開始できるよう検討を進めています。

地区からのご相談には、生活支援コーディネーターが地域の皆さんのもとへお伺いし、皆さんとも協議をしながら、より良い支援体制を構築していきたいと思いますので、地域の皆さんのご協力をお願いします。

「循環バスの増便、コースの見直し、行きたい場所に短い時間で着けるようにしてほしい。」というご要望は理解いたしますが、増便については、町の財政状況や費用対効果の問題や課題があり、早急に行うことは難しい状況です。

また、コースの見直しについては、集落が点在し、道が細いという阿久比町の地域特性を考えるとこちらも難しく、試行錯誤の結果現在のブルーラインとオレンジラインによる運行となっています。

今後も駅からスーパーや病院など需要の多い場所に停まるルートの追加など、利用しやすく便利なバスとなるように少しずつ改善しながら皆さまに愛さる循環バスになるよう努めてまいります。

○地区からのご意見に対する回答

「『虫供養』行事運営の見直しについて」

【回答】

「虫供養」に対するご意見をいただきまして、ありがとうございます。

阿久比谷虫供養は、古く平安時代より行われている民俗信仰行事であり、長い歴史と伝統のある行事として住民の方々に引き継がれているものです。

この行事は、「知多の虫供養行事」のひとつとして愛知県無形民俗文化財に指定されており、行事に用いられる掛軸１２幅は、阿久比町有形民俗文化財に指定されています。

虫供養行事は、１年を通して行事があり、貴重な文化財を守り、行事を传承していくことは、大変なご苦労があると思います。これまで、阿久比谷虫供養保存会の皆さまが大切に守り、受け継いでこられた長い歴史と伝統のある貴重な文化財ですので、町としましても未来に引き継いでいただきたいと思います。

虫供養行事の運営や行政の関わり方については、以前に議会でもご質問をいただき、答弁させていただいております。

町では、文化財保護の観点から、文化財に指定している掛軸の保存維持のため、

坂 部

阿久比町文化財保存事業費補助金交付要綱に定めるところにより、平成３年度から毎年、補助金を交付しております。また、掛軸の修理が必要になったときにも、要綱の定めるところにより、補助金を交付します。

このほかには、阿久比谷虫供養保存会の皆さんがお集まりになって、今後の虫供養行事についての検討会を開催したときの、お手伝いをさせていただいたことがあります。

今のところ、町主体で虫供養行事を運営していくことは考えておりませんが、阿久比谷虫供養保存会の皆さんのお知恵を持ち寄って、この歴史と伝統のある虫供養行事を存続していただけるようお願いしたいと思います。

○テーマについての意見・提言に対するコメント

「空き家が少なくなれば、定住促進につながるのではについて」

ご意見・ご提案ありがとうございます。

空き家における雑草や樹木の繁茂に対する苦情の際は、所有者へ適切な処置を依頼しております。その際には、シルバー人材センターを紹介しております。空き家が放置されることは望ましくないため、空き家所有者の相談窓口や空き家の利用希望者と所有者をマッチングする空き家バンクの創設等を進め、空き家の解消に努めていきます。

○地区からのご意見に対する回答

①交通安全「阿久比団地内公園の北側の道路が狭いにも関わらず、通り抜けをする自動車が多いため、公園内で遊ぶ子供が危険→新看板の適正な位置への設置」

【回答】

ご意見ありがとうございます。

注意看板（例「生活道路のため、通り抜け禁止」）の設置を検討します。

②防犯「防犯カメラの設置、防犯カメラ（ダミー）の設置、『この地区は防犯カメラ設置地区です』の看板設置」

【回答】

ご意見ありがとうございます。

現時点で町として阿久比団地入口をはじめ主要交差点や公共施設等町内78箇所に防犯カメラを設置しております。

また、自治会が防犯カメラを設置される場合には、かかった費用の3分の2（上限20万円）の補助をしておりますのでご活用ください。

防犯カメラによる抑止効果をあげるため「防犯カメラ作動中」のステッカー、「防犯カメラ設置監視強化地域」のぼりがありますので、必要であれば防災交通課までお問合せください。

なお、現在のところ町としてはダミーのカメラは設置しておりません。

〇テーマについての意見・提言に対するコメント

「より良い街づくりを目指す提案について」

ご提案ありがとうございます。

本町においても、ご提案をいただきましたように ICT 等を活用し、新型コロナウイルス感染症対策の「新しい生活様式」への対応や、災害時に地域と行政の情報連携が素早く、正確に実施できるような仕組みを検討しているところです。

「町からの各種依頼等の送信及び回答の電子化」、「行政協力員会の Web 会議実施」、「災害時にアプリを利用した情報連携」等の事業について具体的に進めています。

行政協力員に、この事業実施の為のアンケート調査をお願いしたところです。

4 小学校と 1 中学校に、パソコン 1 台/1 人を貸与することにつきましては、文部科学省が推奨する GIGA スクール構想に基づき、今年度中に 4 小学校 1 中学校の児童・生徒、一人 1 台のパソコン（タブレット）が利用できるよう、準備を進めています。

町内 23 行政区で各 1 台オンライン会議が出来るインフラを整備すること、並びに町内の団体/組織の代表と町との間に、双方向性「情報交換」手段の導入等につきましては、前段で述べさせていただいたとおり、現在実施方法について検討しております。

また、今年度に防災行政無線の情報を確認できるアプリを導入し、災害発生時等には住民の皆さまに、迅速・確実に情報発信ができるよう準備を進めております。

「行政と住民が連携した防災訓練の方法について」

防災訓練について多くのご意見をいただきありがとうございます。

ご意見の内容を整理しますと、「①家庭や身近にあるものを使用した訓練指導」、「②定期的に救命講習会を開催」、「③過去の災害、被災市町村の事例を参考にした行政と地区の連携訓練と訓練の意義を周知」と理解しましたのでそれぞれコメントさせていただきます。

①は、ご意見をいただいたとおり、各地区の防災倉庫にある資機材や身近にある道具でなければ、実際の災害時には処置や対応ができないことから、町防災訓練では、各小学校に設置されている学区自主防災倉庫に配備しているジャッキやチェーンブロック、地区避難所に配備している発電機やスコップなどの資機材の使用訓練、家庭にある身近なものを使用した応急手当訓練を実施しています。

ただし、そういった資機材がどこにあるのかといった周知が弱く、訓練参加者の皆さまに十分に伝わっていないことは懸念しています。

今後は、地区のどこに配備してある物なのかを周知したうえで、地域の方々がより一層、現場で迅速に活用できる知識と技術の定着を目指した訓練を計画

してまいります。

また、各自主防災会の訓練を行う時に阿久比支署へ「防災訓練等指導願」を提出していただければ、消火訓練だけでなく、チェーンソーやジャッキ、発電機等の使い方やスコップやロープの活用法等訓練を受けていただくことも可能ですので、ぜひご検討いただくようお願いします。

②の普通救命講習会につきましては、知多中部広域事務組合が定期的に行っています。開催日時はその都度、広報あぐい等で周知しています。

また、半田消防署阿久比支署にご依頼いただければ随時実施は可能です。詳細は、4月に配付いたしました行政協力員会資料（防災-20～防災-22）「消防署員による自主防災会への訓練指導について」を参照し、お申し込みください。

ご意見いただいたとおり「身近な危機」から関心を持っていただくことは、平時にも役立ちますし、防災の意識啓発の入口として大変重要だと感じております。

③は、東日本大震災の発生時、仙台市の鉤取（かぎとり）ニュータウン町内会では、フラッグの活用により、全世帯約400名の安否をわずか35分で確認できたという前例もあり、本町においても「安否確認フラッグ」を導入しました。その後、フラッグを活用した避難訓練・地区から行政への情報伝達訓練を実施しています。

このほか、毎年東浦町と共催しております防災リーダー養成講座や防災講演会においても、過去の災害からの知見や教訓を参加者へ紹介しています。

訓練の意義を周知することにつきましては、偶数月の広報に防災関連記事として「その日に備える防災」を掲載し、防災啓発文書の回覧等を定期的に行っているほか、前述の防災リーダー養成講座や防災講演会においても防災情報や訓練の重要性を周知しています。防災訓練の開催月には、全戸配布や広報で訓練の周知をしています。

なお、今年度、防災行政無線のデジタル化工事に合わせ、導入する「防災アプリ」を住民の皆さまへ積極的に周知し、的確な防災・減災情報を住民の皆さまへ発信できるよう努めてまいります。

「定住促進を図るために地域で出来ること」

定住促進についてのご提言ありがとうございます。

定住意向調査を含めた住民アンケートは5年ごとに実施しています。

転出者を対象としたアンケートは、興味深い発想ですが残念ながら実施したことはございません。

住民アンケートの結果では、「まちに対する愛着度」も「定住意向」も高いので、これからも愛着を感じて住み続けたいと感じてもらえるような地域づくりを町民と一体となって進めていきたいと考えます。

子どもを持つ世帯が団体活動に参加することによる負担の軽減につきまして

は、既存の活動方法を見直す必要があります。

各種活動を廃止してしまうことも考えられますが、懸念として挙げていただいているように、地域での繋がり希薄になってしまうことは、大きな損失です。

子どもを持つ世帯には多用な生活様式がありますので、各種活動への参加は強制ではなく、自由参加であることを活動の主催者も参加者も念頭に置いていただく必要があります。

子供たちのためにボランティアでイベントを企画する方々もお見えですので、主催者に甘えることになってしまいますが、そのようなイベントに参加することも負担軽減になります。

子どもたちが育ったまちで住み続け、次の世代へ伝統を引き継いでいくことは大切なことであると感じていますので、様々な行事に子供たちが積極的に参加できるよう保護者の方々にも可能な範囲でご協力をお願いします。

「地域住民がボランティア活動に気軽に参加できるには」

ボランティア活動に対するご意見・ご提案をいただきまして、ありがとうございます。

教育委員会が主催する行事や会議等で、特に、広く住民の皆さんに参加していただきたいものは、できるだけ土曜日や日曜日、夜間に開催するよう心がけています。

ご多用のところ恐れ入りますが、お仕事に支障のない範囲でご協力くださるようお願いいたします。

○テーマについての意見・提言に対するコメント

「地域住民がボランティア活動に気軽に参加できるには」

ご意見ありがとうございます。

災害が発生する都度、全国から被災地に多くのボランティアが集まります。このことからボランティアに多くの方が関心をもっていることが伺えます。ライフスタイルはそれぞれ異なり、参加したくてもボランティア活動に参加できなかったり躊躇したりするなど人によって事情は様々です。

ボランティア活動は「気軽に」という点から、大きな責任や使命感を負うようなものではなく、「広く浅く」たくさんの人たちが参加できるような活動が増えることにより、「気軽に参加できる」環境が整っていくと考えます。

阿久比町の独自事業である住民税１％町民予算枠わくわくコラボ事業では、自分たちでできることを自分たちで企画して実施していく制度です。

平成２４年度から始まったこの制度が定着した背景の１つには、阿久比町民のボランティア意識の高さもあると考えています。

みんなで知恵を出し合い、よりよいまちづくりを進めていくためにも、この制度も利用しながら自分たちにできるボランティア活動を見つけていただけたら幸いです。

また、先進事例がありましたら、皆さんに様々な方法で伝えていきたいと考えています。

○地区からのご意見に対する回答

「町スポーツ協会に加盟する競技団体の試合結果を町広報誌等に掲載してはどうか」

【回答】

ご意見ありがとうございます。

町スポーツ協会の結果については、スポーツ協会で新たに会報誌を作成して掲載する、阿久比町のホームページに掲載する等、様々な方法が考えられますが、スポーツ協会内の競技団体の方々からのご意見をいただきながら、検討していきたいと考えています。

○テーマについての意見・提言に対するコメント

「定住促進を図るために地域でできること」

ご意見・ご提案ありがとうございます。

阿久比町では、昨年度まで未満児（０歳児～２歳児）の保育所の入所に関して、保護者それぞれについて社会保険等への加入を要件としておりましたが、本年度については２歳児についてその要件を廃止しました。今後は、０歳児・１歳児についても保育士の確保状況や出生数、人口動態等を考慮しながら、段階的に社保加入要件を廃止していきたいと考えています。

保育所は、就労等により家庭で保育できない児童を保護者に代わって保育をする施設ですが、３歳児以上の児童については、定員に余裕がある場合に保育理由がなくても自由契約児として利用を認めるという運用をしています。

また、阿久比町ではひとり親家庭の子については、保育所入所に関しての優先度が高くなる取り扱いをしています。

子育て支援センターにつきましては、毎月１５日号の広報に行事などをお知らせする「ぴっぴだより」を掲載し、町ホームページに基本的な利用案内を掲載しております。利用方法など分かりやすくお伝えし、より多くの子育て世帯の皆さんに利用していただけるよう、他の伝達手段も含め、広く周知できるよう検討していきたいと考えております。

また、各小学校区に子育て支援センターを設置することは、実施場所や人員等の問題から現時点では難しいと考えます。

子育て支援センターに来られない親子等の支援として、中央公民館・宮津公民館へ出張して広場の開催を行っております。また、保護者が徒歩で行くことができる各地域の保育園においても、子育て支援センターのスタッフが出張する「なかよし広場」「園庭開放」を開催し、地域での相談や交流の場を設けております。広報等でお知らせしていますので、ご利用いただきたいと思います。

高齢者が安心して暮らせるまちづくりのため、健康介護課では、現在、地域包括ケアシステムの構築を目指して、様々な事業を行っています。その中でも介護予防は重要な役割を占めています。

介護予防とともに生活習慣病予防、健康づくりは重要な取り組みであるため、阿久比町ふれあいマップの周知など、社会資源を活用した健康づくりを進めていきます。

○地区からのご意見に対する回答

「教育現場でのＩＣＴ導入の計画」

【回答】

文部科学省は、２０１９年１２月に「１人１台端末は令和の学びの『スタンダード』。多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人ひとりに公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ＩＣＴ環境の実現へ」

とする、『G I G Aスクール構想』を打ち出しました。

G I G AとはGlobal and Innovation Gateway for Allの略であり、文部科学大臣からも、「Society5.0時代に生きる子供たちにとって、P C端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムです。今や、仕事でも家庭でも、社会のあらゆる現場でI C Tの活用が日常のものとなっています。社会を生き抜く力を育み、子供たちの可能性を広げる場所である学校が、時代に取り残され、世界からも遅れたままではいられません」と、全国の首長や教育委員会に向けて強いメッセージが寄せられました。

阿久比町では、国の構想なども踏まえまして、ハード面においては高速大容量の通信ネットワーク環境整備1人1台端末を今年度中に終える計画を立てていましたが、今般の新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言を受けまして、国より1人1台端末の早期実現や、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、I C Tの活用により全ての子供たちの学びを保障できる環境を早急に実現することを目的として、令和2年度補正予算が成立し、補助金が前倒しでもらえることになりました。

そこで、当初の予定から計画を早め、当町では令和2年度内に1人1台端末が実現できる補正予算を組み、6月議会で認められましたので、今年度、高速大容量の通信ネットワーク環境が整い、1人1台端末が実現し、本格的にG I G Aスクール構想における学校内でのI C T教育を進めることができるようになります。

ソフト面につきましては、文部科学省が示すガイドライン等を参考にしながら、「すぐにでも」「どの教科でも」「誰でも」活用できるように、デジタルならではの学びと充実を図り、あらゆる世界で活躍できる子供たちを育成できるようサポート体制を整えていきますので、地区の皆さまのご協力をお願いします。

「子ども食堂のような活動支援について」

【回答】

子ども食堂は、「子どもの貧困対策」のみならず「子どもの居場所づくり」や「地域交流の拠点」としての役割もあり、子どもだけではなく、地域のコミュニティにとっても重要な役割を持つものと考えます。

現時点で、町による子ども食堂の開設予定はありませんが、民間による開設等の話があがった時は、子育て支援課までご相談いただくようお願いいたします。

○テーマについての意見・提言に対するコメント

「行政と住民が連携した防災訓練の方法について」

ご意見ありがとうございます。

町の防災訓練は、毎年様々な災害を想定して実施しております。

過去には、南海トラフ地震を想定し、倒壊家屋からの救出訓練、具体的にはチェーンソーやジャッキ、スコップを使った救助・救出訓練等を実施したこともあります。

また、直近では、集中豪雨等の風水害に加え、避難所における新型コロナウイルス感染症対策など、あらゆる災害に備え、様々な想定での訓練が必要になっています。

ご指摘いただいたとおり、本町には古い木造の住家が多い地区と耐震性を満たした新しい住家が多い地区があり、それぞれの実情が異なります。

引き続き、マンネリ化にならない工夫と有意義な訓練に向け検討し、より地域の実情ときめ細やかな想定での訓練ができるよう、地区自主防災会と協力しながら「共助」を強化する方法を検討してまいります。

矢口自主防災会におかれましては、地域にあった独自の訓練方法を検討し、実施していただきますようお願いいたします。

○テーマについての意見・提言に対するコメント

「定住促進を図るために地域でできること」

ご意見・ご提案ありがとうございます。

阿久比町としましても、地域の皆さまが安全な通行ができるような環境整備を進めていきます。道路において危険箇所、補修箇所等がある場合は、地区より維持補修申請書をご提出いただき、解消を図っていきます。

後継者がいない農地については、愛知県農地中間管理機構により借り受け、貸し付けの調整をしています。新規の就農者への紹介希望があれば相談に応じることとはできます。耕作放棄地は、点在しており、企業の誘致のための広大な面積の土地に集約できないため、活用ができません。山林については、造成費用、残土処理、森林伐採、アクセス道路の整備、上水道整備など工場用地として整備するには大きな問題がいくつもあり、提供できる土地がないのが現状です。

今後、候補地として挙げられる場所を地域から提案いただければ、積極的に検討していきたいと考えています。

○地区からのご意見に対する回答

「昨年度の『まちづくり懇談会』の課題テーマ『放課後の子どもの居場所はどうあるべきか』への地区提案に対しての現状はどのようになっているかについて」

【回答】

「新施設の付近に防犯灯が設置されていない。」につきまして、当該施設付近の防犯灯を、昨年度高岡地区からの要望により1基設置させていただいたところですが、本年も昨年設置した箇所の南側にもう一本新設要望がありましたので、他地区の要望箇所との優先順位にもよりますが、新設できるように検討しているところです。

「施設の西の道路の幅員に余裕がないことによる、保護者の送迎時の交通事故の心配」につきましては、地区で地権者の方々の道路拡幅同意をまとめて頂いた上で、地区と協力しながら道路拡幅に努めていきます。

「児童が小学校から施設に向かう道路わきの側溝の段差や隙間の危険性」につきましては、現地状況を確認し、児童が安全に通行できるよう努めてまいります。

○テーマについての意見・提言に対するコメント

「行政と住民が連携した防災訓練の方法について」

ご意見ありがとうございます。

パターン化せず、より幅広い参加者を募ったり、より地域の実情や参加者が身近に思えたりする訓練を実施するには、年１回の町防災訓練だけでなく、地区や学区、コミュニティ単位での訓練の計画を検討していく必要があると考えます。

例年、小中学生が参加できるイベントとして「避難所キャンプ」を開催し、幼稚園・保育園や小学校にチラシを配布し参加を促していますが、なかなか参加者が集まらない状況です。

住民の皆さま一人ひとりの防災・減災意識に働きかけるような仕掛けを引き続き検討してまいります。

特に昨今は、コロナ禍における避難所運営が課題となっています。

避難所は、小学校の体育館など他の地区と共同で運営していくことが想定されますので、学区やコミュニティ単位での訓練実施がより有効であると考えています。

今後、町、地区自主防災会、コミュニティの連携についても検討していきます。

○地区からのご意見に対する回答

「このコロナウイルス感染症対策のさなか自由に屋内外施設が使用できないときに、東海・東南海・南海地震が発生した場合、その他の自然災害（台風・豪雨災害等）において避難所の開設が必要となった場合、避難を必要とする方にどのように避難所を開設していったらよいのか。自主防災会としてどのように立ち振る舞いをしていったらよいのか。その場合、今以上にマスク、アルコール消毒液など不足、入手困難となることが考えられるが、そのような物資が必要に応じて町に準備があるのか、各防災会にてどこまで備えるべきなのかについて」

【回答】

今年７月２０日、アグピアホールにおいて県主催で「コロナ禍における避難所の感染防止対策研修」を実施しました。

また、８月３０日には、町職員による感染防止対策を講じた避難所・避難場所の開設訓練を実施いたしました。

これらの実施結果を検証し、町として避難所開設の指針を取りまとめ、行政協力員の皆さまに展開していく予定をしております。

愛知県が算出した南海トラフ地震発生時における、本町の避難者数及び帰宅困難者数は５，０００人で、その分のマスクは確保しております。

アルコール消毒液については、保健センターで備蓄がありますが、防災交通課においても避難所用の備蓄を進めているところです。

避難所での感染防止の観点、また、できる限り他者との共用を避けるためにも、各個人・各ご家庭でのマスク・消毒液・体温計等の事前準備をお願いし、そのこ

植

とを広報等で周知してまいります。

町の備蓄にも限りがございますので、各自主防災会におかれましても備蓄へのご協力をお願いします。

○テーマについての意見・提言に対するコメント

「行政と住民が連携した防災訓練の方法について」

ご意見ありがとうございます。

自治会の役員だけでなく一般の町民の方が参加しやすい、また、日頃から防災や減災に関し、少しでも意識をもっていただけるよう、町の既存のイベントと連携した「防災ブース」や「防災フェア」のような内容で、まずは足を運んでいただくことも多様な町民参加に向け必要であると感じています。

また、年1回の町防災訓練だけでなく、地区や学区、コミュニティ単位での訓練の計画を検討していく必要もあると考えています。

特に昨今は、コロナ禍における避難所運営が課題となっており、避難所は、小学校の体育館など他の地区と共同して運営していくことが想定されますので、学区やコミュニティ単位での訓練が有効であると考えます。

平成29年度の防災訓練では、要支援者宅を訪問し、要支援者登録台帳などを基に、避難方法を確認、必要な資機材や避難経路などを聞き取り調査票に反映させるなど、各地区自主防災会の皆さまには、多大なるご協力をいただきありがとうございました。

この訓練時の聞き取り調査票については、自主防災会及び民生児童委員に要支援者登録台帳とともに保管、調査票の情報更新を依頼いたしました。

今後も調査票の情報については、随時更新をお願いします。

現状では、町民と行政が一斉に行動する訓練が多く、今後は、それぞれの役割を明確にした「自助」「共助」の重要性を認識する訓練内容を検討してまいります。

また、ご提案のありました「隣組レベル」での参加ですが、「自助」（個人）と「共助」（地区）の間に、「互助」（近助）という言葉もあるように、災害時にはご近所や隣組での助け合いは大変重要です。

ぜひ、そのためにも日頃から顔の見える関係性を構築していただきますよう、合わせてお願いいたします。